

議 事 録

会議の名称	第1回上牧町学校統合準備委員会（学校教育部会）会議
開催日時	令和4年11月21日 午前10時00分から
開催場所	上牧町役場 西館2階 第6会議室
出席者 (委員等)	岸本部長、西浦委員、奥田委員、石田委員、辻本委員、 安中委員、向井委員、竹本委員、福井委員、上西委員、 高田委員
出席者 (事務局等)	教育総務課長補佐、教育総務課 主事
傍聴の有無	なし
議事録の 作成方法	要点筆記（簡易対話形式）
会議の議事	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 学校教育部会での検討事項について 3. 部活動の整備とアンケート(案)について 4. 学校と地域の交流について 5. 今後のスケジュールについて 6. その他（連絡事項等） 7. 閉会
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育部会資料1：「通学部会での検討事項について」 ・学校教育部会資料2：「部活動の整備について」 ・学校教育部会資料3：「部活動アンケート(案)」 ・学校教育部会資料4：「学校と地域の交流について」 ・学校教育部会資料5：「今後のスケジュールについて」
決定事項	なし
特記事項	なし
次回日程	未定

内容（簡易対話形式）

1. 開会

事務局 定刻により開会する。
なお、本会議は「上牧町審議会等の設置及び運営に関する規則」第10条の規定に基づいて公開とし、会議録作成のためICレコーダーで録音していることについてご了承いただきたい。
それでは、配付資料について確認する。

（事務局が配付資料を確認）

2. 学校教育部会での検討事項について

岸本部長 それでは案件事項を進める。
まず、学校教育部会資料1：「学校教育部会での検討事項について」に関して、事務局から説明をお願いします。

（資料について事務局が説明）

岸本部長 ただいまの説明について、何か質問等はあるか。

（質問等なし）

3. 部活動の整備とアンケート(案)について

岸本部長 それでは案件事項を進める。
続いて、学校教育部会資料2：「部活動の整備について」及び学校教育部会資料3：「部活動アンケート(案)」に関して、事務

局から説明をお願いします。

(資料について事務局が説明)

岸本部長 ただいまの説明について、何か質問等はあるか。

辻本委員 資料を見て両校における生徒の所属状況等は理解したが、指導者の状況としてはどうなのか。

岸本部長 対外試合などに帯同することも考え、1つの部活動に正副2人の教職員が顧問として就いており、教職員数も限られているなか、かなり厳しい状況である。今後のことを考えると地域移行等も視野に入れて検討を進める必要があると感じている。

西浦委員 本校（上牧第二中学校）は生徒数・学級数が少ない分、教職員数も非常に少ない。そのなかでも一定の活動をしていく必要があるので、1人の教員が複数の部活動を掛け持ちしているような状況である。

上西委員 部活動の所属は自由であると認識しているが、どこにも所属していない生徒はどの程度いるのか。

岸本部長 体感的には、6～7割程度が何らかの部活動に所属しているように思う。

西浦委員 本校は8割程度が何らかの部活動に所属している。

向井委員 上牧町学校適正化基本計画（令和4年3月）にある令和4年度普通学級生徒数の推計値（上牧中学校：333人、上牧第二中

学校：141人）と資料2の数値（上牧中学校合計値：327人、上牧第二中学校合計値：127人）を比較すると、上牧中学校で約98%、上牧第二中学校で約90%の生徒が何らかの部活動に所属していることになるのではないかと。

岸本部長 資料2の所属状況は3年生引退前のものであり、ご指摘の数値には「スポーツクラブに所属している」人数も含んでいると思う。また、所属人数としてカウントされているが、名前だけ登録していて実際には活動していない生徒も多くいる。

今後、ニーズ調査をするということであるが、保護者や子どもたちの要望をすべて叶えることは難しいことから、「希望した部活動が必ず整備される」と誤解を与えないよう慎重に実施してほしい。

安中委員 指導状況としては教職員数的にも厳しい状況であるとのことであったが、片岡台地区にバドミントンで有名な方がいると聞いたことがある。そういった人材を指導者として活用するという考え方はできないものか。

岸本部長 今後、地域参画を検討するなかではあり得る。部活動は教科外ではあるものの、子どもたちにとっては学校生活における非常に重要な要素となっている。

向井委員 対外試合に出場する、またそれに向けて練習するという楽しさを子どもたちには経験してほしいので、何とか各競技の定員に届くようにしてあげたい。

岸本部長 資料を見ていると個人競技の部活動に人数が集中している。

高田委員 教職員数の観点から、具体的に何種類程度までの部活動を整備できるのか。

岸本部長 教職員数としては、統合により各学年4学級編制となった場合で24~25人程度になるかと思う。

高田委員 本日の案件事項を見て、今後はニーズ調査を踏まえて部活動を充実させていくという流れを考えていた。しかし、教職員数等のことを考えると自由に何種類でも整備できるものではないということが分かった。ニーズ調査をすれば「してもらえるもの」と受け取られてしまうことも懸念されるので、方法等は慎重に検討しなければならない。

上西委員 教職員数の問題もあるが、場所の問題も併せて考えなければならない。整備したものの場所がないということでは意味がない。

安中委員 近隣には王寺北義務教育学校がある。そういった先進校の事例はないのか。

事務局 次回以降にご紹介できるよう調査しておく。

岸本部長 資料3の「部活動アンケート(案)」について意見はあるか。

向井委員 誤解を与えないようにという観点では、中学生用アンケート(案)にある「新しく」という言葉は除いた方がいい。

高田委員 同感である。

辻本委員	第一希望、第二希望という形で意見を募ってはどうか。
向井委員	文化部も含めたすべての部活動において教職員を2人充てる必要があるのか。
岸本部長	兼任できる部もある。また、小学生用アンケート(案)にある部活動数程度であれば、統合後も運用していくことができると思う。
安中委員	地域参画の観点から、運動部であれば求めるレベルによって外部と合わないこともあると思うが、文化部の指導に関しては地域の力を借りやすいのではないかと。地域には分野ごとに優れた方々がたくさんいる。
竹本委員	部活動に関して検討する上では「どんな学校にするのか」というコンセプトに関する部分が大切だと考える。部活動は子どもたちに成功体験を与える場として重要であり、それぞれの目標に向かって努力し実現する、また失敗するといった過程が子どもたちにとって財産となる。また、地域移行についても積極的に考えていく必要があるが、対外試合には教職員も帯同する必要があるなど、完全に地域に移行できるわけではないことも念頭に置かなければならない。ニーズ調査については、教職員に対しても行う必要があるように思うほか、小学生に聞くのであれば「何をしたいか」ではなく「今、何をしているか」を聞く方がいいと思う。
岸本部長	保護者の立場からはどうか。
石田委員	子どもたち自身が楽しく過ごせることが最も大切であるが、

統合時の2～3年生など、学年の途中で統合される子どもたちへの配慮もお願いしたい。部活動の用具等に関しても、統合によって買なおすとなれば保護者の費用負担も大きくなるので、そういった細かな部分への配慮が大切であると考えている。

奥田(愛)委員 非常に難しい問題だと感じている。ニーズ調査に基づいて整備するという単純な問題ではないので、慎重に検討を進められればと考えている。

岸本部長 それでは、部活動のことに関しては本日の意見を踏まえ、次回以降に事務局から改めて資料を示していただければと思う。

事務局 承知した。ニーズ調査の部分に関しては本日の意見等を踏まえた案を改めて示し、参考事例に関しては王寺北義務教育学校の取組等を確認しておく。

4. 学校と地域の交流について

岸本部長 それでは案件事項を進める。
続いて、学校教育部会資料4：「学校と地域の交流について」に関して、事務局から説明をお願いします。

(資料について事務局が説明)

岸本部長 ただいまの説明について、何か質問等はあるか。

安中委員 社会福祉協議会のところで小地域ネットワークという活動がある。これは自治会区単位であるものの自治会とは別に行っている活動のことを指しているのだが、餅つき大会などの様々な

催しが行われ、どれも盛況であると聞いている。こうした活動においては「いかにして子どもたちが参加したくなるようにするか」ということが重要であると考えている。私は先日のペガサスフェスタに舞台支援として参加していたのだが、舞台裏での子どもたちはとても楽しそうで、舞台に立っても大盛況であった。ペガサスホールという立派な建物を活用しない手はないと思うので、ペガサスフェスタのようなイベントを中学生が主体となって企画・運営し、そこに地域も協力していくという形があってもいいのではないかと。また、子どもたち自身が自分たちの防災のことを考える、町の防災のことを考えるという取組もいいと思う。

向井委員 学校・地域パートナーシップ事業のコーディネーターに「これまでどのような苦労があったか」聞いてみてはどうか。資料4にある事例はどれも出来上がったものなので良く見えるが、そこに至るまでに様々な課題・苦労があったと思う。そういった部分を知らないことには「どのような取組を」という議論はできないのではないかと。

辻本委員 新たな事業に関する検討であるとは思いますが、今ある事業も高齢化等により運営が難しくなっている。どのような取組でも小学生より中学生の方が参加率は低い。

高田委員 土曜日に上牧中学校舎を利用して特別授業のようなものを実施してはどうか。内容は特に限定せず、地域の方も参加できるようにしておけば自然と学校施設へ足を運ぶ機会が増え、つながりも生まれてくるように思う。

向井委員 地域福祉保健計画推進会議に中学生が参画しているという事

例紹介があったが、上牧町でも同様の会議に中学生を呼んでみてはどうか。

西浦委員 先日、子ども議会があったが、中学生にもなるとしっかりとした意見を述べる。

向井委員 Art in English も評判がよかった。ペガサスフェスタのときには通路に展示されていたが、子どもたちの作品を公共施設に展示するだけでも地域住民は学校とのつながりを感じることができる。中学生にも同様の取組があってもいいのではないか。

安中委員 地域住民のなかには、自分たちの地域に子どもたちがいるという認識がない人もいる。その意味でも、先の意見にあった作品の展示等を通じて子どもたちの存在を認識させていくという取組は重要であると思う。

岸本部長 いきなり新たな事業を開始するということではなく、文化祭やパートナーシップ事業といった既存行事・既存事業の延長としてできることから取り組んでいくことが重要である。
ほかに意見等はあるか。

(意見等なし)

5. 今後のスケジュールについて

岸本部長 それでは案件事項を進める。
続いて、学校教育部会資料5：「今後のスケジュールについて」に関して、事務局から説明をお願いします。

(資料について事務局が説明)

岸本部長 ただいまの説明について、何か質問等はあるか。

(質問等なし)

6. その他 (連絡事項等)

岸本部長 それでは、委員又は事務局から何か連絡事項等はあるか。

安中委員 地域交流に関連して、今後、子どもたちが本物に触れる機会を創出できるよう積極的な取組を期待したい。

竹本委員 先ほど「どんな学校にするのか」というコンセプトに関する意見を申し上げたが、コンセプトを考える上では現在の両校がそれぞれに抱えている課題等を洗い出し、それらを克服していきけるような統合事業のコンセプトとして検討していくのがいいと思う。また、今後どのような取組を行っていくにしても、まずは学校統合に対する関心を高めていく努力が必要である。

上西委員 保護者等のなかには、このたびの統廃合に反対という方もいると思う。このことを踏まえて統廃合する以上は、統合後の学校はより魅力的なものにしていかなければならないと感じており、保護者等の思いをしっかりと汲んでいく努力が必要だと考えている。また、上牧町は奈良県平均と比較して学力が低いということを聞いているが、そのことについても克服できるような取組ができればいいのではないかと考える。

安中委員 上牧町の学力が奈良県平均よりも低いということは以前から

言われていることではあるが、その原因を究明しなければ何も解決しない。

高田委員 私はまきっ子塾でアドバイザーをしているが、子どもの勉強に対する親の関心が低いと感じることがある。家庭での取組に関しては町・学校・地域の力ではどうすることもできないところがあるため、意識を高めるきっかけになるような取組ができればとは考えている。

岸本部会長 ほかに連絡事項等はあるか。

(連絡事項等なし)

岸本部会長 それでは、本日の案件事項は以上となるため事務局に進行を移したいと思う。

7. 閉会

事務局 以上をもって第1回上牧町学校統合準備委員会（学校教育委員会）会議を閉会する。

以上